

【奨励賞】

団体名	株式会社松ヶ崎小学校（かぶしきがいしゃ まつがさきしょうがっこう）
活動の内容（概要）	新潟県佐渡市にある松ヶ崎小学校は全校 4 名の小規模校であり、廃校の危機を脱するため「株式会社松ヶ崎小学校」というプロジェクトを実施。学校の魅力を発信し、当該地域への移住・転校の促進を目的に、学校を「企業経営」に見立て、様々な活動を行っている。令和 3 年度は「移住家庭 2 家庭、問合せ件数 8 件」という数値目標と「世界一、総合学習的な学習の時間が有名な学校」というビジョンを児童が自ら設定し、地域を巻き込んだ活動を行った。

受賞理由

- 感動があるキャリア教育だ。外部組織が関与した場合に良く起きるのがすべてお任せになってしまい、お仕着せのプログラムをこなしていくという受け身のキャリア教育。株式会社松ヶ崎小学校は児童・学校・地域を中心とした活動に外部組織は触媒のような役割に徹している。主人公は児童自身。ネーミングも発信インパクトがある。組織の役割、ビジョン・数値目標が明確で成果を出すことを意識してモチベーションが上がる、そして株主総会という発表・評価の場が用意されている。このような訓練を日常的に受けている卒業生であるなら企業で即戦力として活躍できそうだ。これからの株式会社松ヶ崎小学校の活躍に期待したい。
- 「松ヶ崎万歳！」という校長のコメントに、地域愛と取組のプライドが感じられる。行政主導「島スクール」の廃校危機小学校への展開で、児童の主体性を引き出し自ら大きなビジョンを掲げるなど効果的。移住への数値目標も成果につながり、児童たちの達成感もイメージできる。知見のある外部活用に加え、株式会社化という展開もユニークである。
- 全校児童 4 名の小規模校の奮闘に拍手を送りたい。自分たちの学校が置かれた状況を明確に捉え、「世界一、総合的な学習の時間が有名な学校」というビジョンを表明した子供たちの思いに共感する。会社形式にしたことで、株主総会での提案や報告など、超えなければならないハードルが生じており、それが活動のクオリティを上げることにつながっていると思われ、移住家庭 4 軒、問い合わせ 1 2 件という成果につながっている。今後、ネットワーク活用の一層の充実を進めることで、新たな展開が望めるのではないかな。
- 離島の小規模校での実践であり、児童生徒自らが学校の魅力を発信するという創意ある取組であることから、心から応援したい。
- 年間目標など KPI が明確で達成されているなどとても興味深い。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

佐渡市立松ヶ崎小学校（新潟県・離島）、佐渡市立松ヶ崎中学校（新潟県・離島）

【行政や地域・社会、産業界等】

潟県佐渡市役所、子どもの元気は地域の元気プロジェクト（佐渡市松ヶ崎小中学校及び多田保育園の保護者・地域住民による有志団体）、株式会社 WE

活動開始の経緯



＜小中学校合同文化祭にて、地域の方もおられるなかで 株式会社松ヶ崎小学校 設立総会を実施＞

【活動開始時期】令和元年～ 【継続年数】4年

本校は、新潟県佐渡市松ヶ崎地区にある全校4名の離島・小規模校である。令和2年から続く廃校の危機を脱するためのプロジェクト、「株式会社松ヶ崎小学校」を実施している。

令和元年7月 新潟県佐渡市で佐渡市地域振興課主催事業「島スクール」を開始し、株式会社WEによるプログラム開発・実施により地域活性化を目指した教育事業を行う。同年10月、当該事業の受講生より、松ヶ崎小学校が廃校の危機にあり、その危機を脱するために協力してほしいと呼びかけがあった。令和元年11月 佐渡市松ヶ崎地区において「島スクール」を実施。地域の住民や松ヶ崎小中学校の教職員・児童・生徒が参

加した。参加者の一人である松ヶ崎小学校教員によって、「総合的な学習の時間」における協働の申し入れがあり、令和2年2月より具体的な活動を開始した。令和2年4月「松ヶ崎小学校をアップデートせよ！主人公は君だ！」と題し、児童自身がプロジェクトを立案・実施。自分たちで決めた目標を達成し、やりきる力を育んだ。令和3年4月 前年度の「やりきる力」を活かして「数値目標を達成する」ための一段高い目標を設定し、「株式会社松ヶ崎小学校」を発足。総合的な学習の時間の活動として、佐渡市立松ヶ崎小学校の魅力を発信し、当該地域への移住及び転校を促すことを目的に様々な取組を実施。

「協働性」についての具体的な取組、工夫している点など

令和3年度は「移住家庭2家庭、問合せ件数8件」という目標に対し、「移住4家庭、問合せ12件」という結果に至った。本活動の成果に至った理由は、関係者間の充実した意思疎通と立場を活かした連携がなされていることにある。本取組は「松ヶ崎小学校を廃校にたくない」という児童の希望のもと、総合的な学習の時間の目的である「①地域活性化②児童の成長」について関係者同士で事前にすり合わせを行なった。学校・地域の人たちの誰もが関われる仕組みを講師が考案し、工夫したものが「株式会社」に見立てた活動である。これは、「ビジョンを掲げ、数値目標を設定し、個々人がその目標を達成するために活動する」という組織における働き方を模したもので、これにより児童は成果を出すことを日常的に意識することができる。具体的には、会長（校長）、社長（株式会社WE 戸田）、副社長（担当教員）、各事業部長（児童）、株主（佐渡市役所・保護者・地域住民）として、学校の枠を越えた協力・連携体制を構築。役員は「取締役会」として全体会議を開催し、児童の取組の進捗共有や、目標達成のためのモチベーション維持などについて意見交換している。さらに、学期の節目には「株主総会」を開催し、株主に対して各事業部が実施し

ている事業の進捗状況や成果を発表した。全体の児童の取組のアドバイスや対外的な広報等を株式会社 WE が担い、学校・産業界・地域が一体となって活動を行なった。

「継続性」についての具体的な取組, 工夫している点など



<「株式会社松ヶ崎小学校 昆虫博部です！」
と、名刺交換をしました>

本取組の強みは、児童・学校・地域を中心とした活動に外部組織（株式会社 WE）が関与して、アドバイスしながら進めるという形態にある。学校と産業界の連携という強みを活かすことで長期的な取り組みが可能となった。要因は 2 点ある。

①明確なビジョンとその浸透：学校のみならず地域住民も巻き込み、協力してもらえるような連携をとるためには、当事者が共感できるビジョンが重要である。本取組では、児童と共に「総合学習で最も有名な学校になる」というビジョンと「移住家庭を増やす」という目標を設定し、株主総会で地域住民に共有した。地域住民の賛同を得た上で、ビジョンと目標を活動の軸とした。「何のために活動しているか」ということを、児童はもちろん学校・地域が理解し、同じ方向

を向いて活動するという事に繋がった。

②大人と児童の活動の融合：学期途中の株主総会で地域の方々に活動発表を行い、日々の活動においても地域住民に協力を仰いだ。その結果、大人が児童の活動に目を向け、大人自身が自ら関心をもって参画しようという動きが起きた。活動を「応援したい」と思う人が増える仕組みを構築でき、各自の主体的な参加を通じた継続的な取り組みが可能となっている。

以上の要因から、本取組が地域において継続的に実施できる基盤ができている。

「実践性」についての具体的な取組, 工夫している点など

本取組の強みは、児童・学校・地域を中心とした活動に外部組織（株式会社 WE）が関与して、アドバイスしながら進めるという形態にある。学校と産業界の連携という強みを活かすことで長期的な取り組みが可能となった。要因は 2 点ある。

①明確なビジョンとその浸透：学校のみならず地域住民も巻き込み、協力してもらえるような連携をとるためには、当事者が共感できるビジョンが重要である。本取組では、児童と共に「総合学習で最も有名な学校になる」というビジョンと「移住家庭を増やす」という目標を設定し、株主総会で地域住民に共有した。地域住民の賛同を得た上で、ビジョンと目標を活動の軸とした。「何のために活動しているか」ということを、児童はもちろん学校・地域が理解し、同じ方向を向いて活動するという事に繋がった。

②大人と児童の活動の融合：学期途中の株主総会で地域の方々に活動発表を行い、日々の活動においても地域住民に協力を仰いだ。その結果、大人が児童の活動に目を向け、大人自身が自ら関心をもって参画しようという動きが起きた。活動を「応援したい」と思う人が増える仕組みを構築でき、各自の主体的な参加を通じた継続的な取り組みが可能となっている。

以上の要因から、本取組が地域において継続的に実施できる基盤ができている。

「発展性」についての具体的な取組, 工夫している点など

本取組の発展性は、地域内外における発信及び連携のための呼びかけを実施している点にある。

① 地域に対する情報発信と協働の呼びかけ：本取組では、地域住民を「株主」とすることで、「株式会社松ヶ崎小学校」という取組のなかに位置づけている。情報発信は「株主総会」という発表の場をつくって実施しているが、これは同時

に、地域住民の意見を聞く機会としての役割も果たしている。地域住民が自ら児童の活動に携わりたいという意思をもってアドバイスや協力を申し出られる仕組みとなっており、地域に根付く形が醸成されている。

② 連携のための呼びかけ：本取組の強みである外部連携は、発展性の側面でも強調できる。佐渡市において事業展開を予定している企業から協力を得られている。例えば、地域・観光客向けの新しい施設において事業展開している企業は、その場を児童に開放するという協力を申し出ている。このように、佐渡市が行う連携事業においても本取組に寄与する動きが見られ、今後本取組が地域において発展する基盤ができていけると言える。

学校現場の評価・感想・コメント

■会長 飯吉文弘（松ヶ崎小学校 校長）

激しく変化する時代だからこそ、「無理だ」とあきらめず「どうすれば」と自分で考え、自分の力を信じて行動を起こし、仲間と共にやり抜く力を育んだ、我が社の部長たちを誇りに思います。地域を愛し発展を願う子どもたちと、その活動を支えていただいた多く関係者の皆様に感謝しています。ありがとうございました。松ヶ崎万歳！

■副社長 村田大夢（松ヶ崎小学校 教諭）

子どもたちと「学校を廃校にたくない」という思いから「株式会社松ヶ崎小学校」を立ち上げました。児童それぞれが自分の好きなことや得意なことを生かして、地域のためにできることは何かを考え、プロジェクトを進めてきました。自分たちで設定した目標達成を目指し、オンライン授業での進捗状況報告を繰り返すことで、見通しをもってやり抜く力が身に付いたと思います。また、子どもたちの活動が、学校と地域の連携をさらに深めるきっかけとなったと思います。今回できた繋がりをこの先も繋いでいくため、松ヶ崎小学校の総合的な学習の時間では、これからも児童、教員、地域が一体となって「地域おこし」に取り組んでいきたいと思っております！

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

本取組は今後も学校・地域・企業が連携して継続的に進め、児童の掲げる「世界一、総合的な学習の時間が有名な学校になる」というビジョンのもと、学習の枠組みとしていきたいと考えている。今後の活動の目的及び想定する成果は、次の2点にある。

① 地域との繋がりと社会に開かれた学校：過去3年間の成果により、本取組について地域での認知度が高まっている。この環境を活かし、児童自身がさらに自発的に地域の方々に協力を求めたり、自分たちの活動を発信したりすることを進め、地域と児童の繋がりが深まるようにしていきたい。

本取組を実施している松ヶ崎小学校は、現在在校生のうち半数以上が移住・転入生である。それでも、本取組を通して、地域の魅力を探したり、発信したりしようと楽しみながら努力している。また、地域の方々にこのような子どもたちがいる、ということを知って協力していただくことで、今後に繋がっていくと考えられる。この姿勢自体が、新しい人たちを受け入れる土壌をつくる可能性を広げている。地域で生まれ育つ子どもたちだけでなく、地域外から入ってくる子どもたちとの取組が、新しい形での社会への開き方を提示できる。このような動きの拠点として学校の取組が位置づけられることで、地域連携もさらに深まる。

② 大人と子どもの相乗効果：本取組の大きな成果の一つは、子どもたちの取り組みが大人たちに派生したことである。「社会に開かれる教育課程」の実現が目指されて5年、全国で様々な活動が行われるなかで、本取組の形は「社会に開かれた教育」のあるべき姿の一つである。今後は学校内からさらに地域に出ていく機会を増やし、子どもたちの活動が地域の大人たちに見えるようにする。それにより、「子どもたちの頑張る姿が大人たちに刺激を与え、大人たちも頑張れるようになる」ことで、「大人たちが頑張るから子どもたちももっと頑張る。そして、頑張る大人たちの姿に憧れ、あのようにになりたい、と思う」。こうした循環によって、子どもたちだけでなく大人たちのキャリア形成にも繋がるようにしていきたい。人生とは常に学びが続くものであり、学ぶことで成長する。このことに喜びを感じられる社会を、本取組を通じて創り出していきたい。